

問1 人工歯の脱離の原因はどれか。

- a 義歯の不適合
- b リリーフの不足
- c 義歯の咬合の不調和
- d 義歯床の厚さ不足

問2 支台装置の修理に関して正しいのはどれか。

- a 新たに製作した支台装置と交換する。
- b 金属床義歯にのみ適応される。
- c 人工歯を必ず交換する。
- d 鋳造鉤でのみ行われ線鉤では行われない。

問3 オーバーデンチャーが通常の義歯と比較して破折しやすい理由はどれか。

- a レジン床内の気泡が多くなりやすい。
- b 残存歯部分に応力が集中しやすい。
- c 顎堤吸収により早期に適合不良になりやすい。
- d 人工歯と床の結合不備が生じやすい。

問4 破折義歯の義歯修理依頼があった場合の対応として正しいのはどれか。

- a 患者さんの大切な義歯なので、必ず素手で丁寧に扱う。
- b 義歯がきれいに割れている場合は義歯を削合してはならない。
- c 人工歯が摩耗している場合は必ず新しい人工歯と交換する。
- d 送られてきた破折義歯は汚染が完全に除去しきれない可能性を念頭において扱う。

問5 リラインの目的はどれか。

- a 審美生の向上
- b 人工歯の修復
- c 適合の回復
- d 破折の修復

問6 リラインが必要とされるのはどれか。

- a 人工歯の咬耗
- b 義歯床の不適合
- c 咬合高径の低下
- d 床翼の豊隆の不足

問7 リベースについて正しいのはどれか。

- a 義歯の粘膜面のみ新しい床用材料と置き換える。
- b 人工歯以外の義歯床をすべて新しくする。
- c リラインと比べて作業が容易である。
- d 直接法で行う。

問8 リラインでフラスク埋没しない場合に用いる器具はどれか。

- a 咬合器
- b テンチの歯型
- c フェイスボウ
- d リライニングジグ

問9 リベースで交換する部位はどれか。

- a 人工歯
- b 義歯床全体
- c 義歯床粘膜面
- d 義歯床研磨面

問10 根面アタッチメントの特徴はどれか。

- a 生活歯に応用できる。
- b 支台歯形成は不要である。
- c 着力点が高い。
- d オーバーデンチャーの支台装置となる。

問 11 磁性アタッチメントの利点はどれか。

- a 支台歯の歯冠歯根比を改善できる。
- b 側方への抵抗力が大きい。
- c MRI 診断に影響がない。
- d 密着度が維持力に影響しない。

問 12 オーバーデンチャーの目的はどれか。

- a 支台歯の自浄性向上
- b 歯根膜感覚の保持
- c 義歯破折の防止
- d 歯髄の保護

問 13 オーバーデンチャーの利点はどれか。

- a 自浄性に優れる。
- b 破損しにくい。
- c 歯冠歯根比を改善できる。
- d 歯周疾患になりにくい。

問 14 金属床義歯の特徴はどれか。

- a 異物感が大きい。
- b 修理・リベースが簡単である。
- c 強靱でたわみが少ない。
- d 製作に特殊な装置を必要としない。

問 15 レジン床と比較した金属床の特徴はどれか。

- a 異物感が大きい。
- b 熱伝導が悪い。
- c 破折が少ない。
- d 設計の自由度が小さい。

問 16 ケネディーの分類Ⅲ級 1 類の金属床義歯を製作するときに必要な技工操作はどれか。

- a 耐火模型の製作
- b ポストダムの設定
- c ガイドプレーン形成
- d レジン系人工歯内面のアンダーカットの付与

問 17 金属床義歯のフレームワークに使用するのはどれか。

- a 白金加金
- b タイプ I 金合金
- c JIS 第 1 種銀合金
- d 12%金銀パラジウム合金

問 18 ノンメタルクラスプデンチャーの利点はどれか。

- a 耐久性に優れる。
- b 装着感がよい。
- c 修理が容易である。
- d 維持力を調整しやすい。

問 19 メタルを使用しない義歯の特徴として正しいのはどれか。

- a 医療保険の適応となる。
- b 空想上の義歯であるため存在しない。
- c 製作過程で試適操作を必要としない。
- d 金属アレルギーのある患者に対して有効である。

問 20 ノンメタルクラスプデンチャーについて正しい記述はどれか。

- a レスト部にはメタルを使用してはならない。
- b 金属床との併用はできない。
- c 人工歯基底面に保持孔を設ける必要がある。
- d 現代の一般診療において最も多く製作される方法となっている。

問 21 破折した義歯の写真を示す。説明として正しいのはどれか。

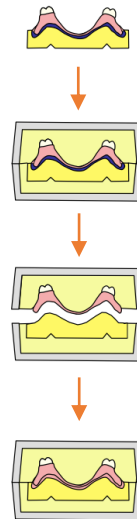
- a レトロモラーパッドが十分に被覆されないために破折した可能性が高い。
- b 義歯構成部に局所的に咬合圧が集中したために破折した可能性がある。
- c 新製後の間もない義歯である。
- d 右側のクラスプが破折している。



問 22 フラスクを用いたリラインの技工操作を図に示す。

図の説明で正しいのはどれか。

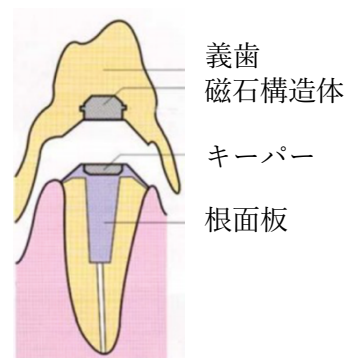
- a 「間接法」と呼ばれる手法である。
- b 埋没には主に超硬質石膏が使用される。
- c 印象材の除去は行わない。
- d リライン材が義歯床研磨面に触れないようにする。



問 23 あるオーバードンチャーの断面図を図に示す。

このオーバードンチャーの特徴として正しいのはどれか。

- a 歯根膜感覚は失われている。
- b インプラントオーバードンチャーと呼ばれる。
- c 義歯破折を起こした場合に修理ができない。
- d キーパーと根面板はセメントで合着している。



問 24 金属床義歯の写真を示す。説明として正しいのはどれか。

- a 「全面金属型」と呼ばれるフレームワーク構造をしている。
- b ケネディーの分類Ⅲ級 2類に該当する。
- c アイヒナーの分類 A 型の可能性がある。
- d フィニッシュラインは研磨面と粘膜面とに付与する。



問 25 この義歯についての説明で最も適しているのはどれか。

- a CAD/CAM の手法を用いて製作されている。
- b アメリカ法により製作された義歯である。
- c ノンメタルクラスプデンチャーである。
- d 義歯には製作者の氏名が刻印される。

